



10周年リレーコラム 第十一回

この会報で記事を書く係も、これまであまりたくさんやってきたわけではありませんが、2010年から考えると、いろいろな立場で作文してきたようにも思います。事務局長として、ファundraising担当として、研修スタッフとして、相談委員長として、また出講報告もいくつかありました。そして今回、理事として。

私自身、この業界というか、界限未経験にも関わらず、成り行きで立ち上げ準備会に合流した口なので、ボランティアのみなさんと、本当に1から一緒に学んできたように思います。そして現在、取材や質疑など、だいたいのことに答えられるようになったのは、相談員としての実績よりも、毎年の養成講座に加え、東北や広島、東京等での出張講座に、毎月の相談員研修と、ほぼ欠かさず参加してきたロールプレイでの反復練習や人前での発表により、ようやくわけがわかってきたところが大きいようにも思います。



自分のなかでの一番の変化は、相談センターの、あるいは、相談員の役割の自覚の部分です。Sotto 設立当初、将来的に窓口自体が必要なくなるような、自殺のない社会というのが目標でありゴールなのだろうと考えていました。しかし、程なくして、そうではないと考え改めるようになりました。人間、生きている限り悩みが尽きることもなければ、抱えきれなくなったり、思い詰めてしまうことは少なくないかと思います。一言に自殺といっても、それぞれに背景や文脈があり、ちゃんと考えてみれば当然のことなのですが、死ぬほど苦しく思いつめる状況において、それでも生き永らえることにどれだけの意味や価値があり、果たしてそれを他人が無責任に強要していいものなのか、納得のいくような理由は存在しません。

それでもできることがあるとすれば、それは、誰にもわかってもらえない絶望やその孤独に真剣に向き合い関わり続けること、気持ちの支えになることです。相手を死なせないために相談に乗るのではなく、ほかにやり場のないだろう気持ちをきちんと受け取り、直接の訴えだけでなく、うまく言葉にできないところすらすくい取っていくような、その孤独の辛さをやわらげるための相談であり、またそれがほかに代えがたい支えたり得ると信じていることなのだと、そう考えています。だから今では、細くとも長く、相談センターが存続し続けることが大切なのだと思います。

(理事 金子宗孝)

理事会・総会を終えて

～自死・自殺にまつわる苦悩を抱える方のために～

1年間の活動を報告するとともに新年度の活動計画や予算を決定する理事会・総会を、今年は5月30日に開催しました。京都府が新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域に入っていることによりオンラインでの実施でした。

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、Sottoも様々な形でオンラインの活用に取り組みました。具体的には、毎年京都市内の会場を借りて開催するシンポジウムもオンラインで実施。依存症問題の啓発活動をおこなう俳優の高知東生さんをゲストにお呼びしてYoutubeで配信しました。例年のシンポジウムは150名ほどの参加ですが、オンラインということもあり、全国各地から300名のご参加をいただきました。当事者の声を届けるとともに、Sottoの姿勢を知ってもらう良い機会となりました。

さらに、研修事業もオンライン中心での開催となりました。ロールプレイ（模擬相談）が研修のカナメなのでオンラインとなることによって質の低下が心配されましたが、試行錯誤するなかでクオリティの高い研修会を実施することができました。対人支援の研修や、「聴く」をテーマにした人材養成についてご要望のある方は、是非ともSottoにお声がけください。これまでに認定基準を満たす相談員を200人以上養成していたノウハウや実績があります。研修事業はSottoの収益にもつながり、資金の面で支援いただくことにもなります。Sottoを応援する意味でもご依頼いただけますと幸いです。

また、貴重なファンレイジングの機会に恵まれました。プロゲーマー梅原大吾さんがホストをされる「Gaming to Connect」というチャリティーイベントにオンライン出演しました。いろいろなゲームプレイとオークション配信の合間に、社会活動をおこなう団体との対談をおこなうというものでした。昨今の情勢下における自殺者増加の報道を受けての打診ということで、数ある支援団体の中からSottoにお声がけいただきました。生放送でしたので、視聴者のコメントも、直前までの楽しい雰囲気とは打って変わっての自殺の話題にざわつきも見られましたが、説明を進めるうちに「わかる」などの共感を得られたことがとても印象的でした。イレギュラーなオファーではありましたが、これまで地道に活動してきたからこそ、今回のご縁につながったのだと思います。

活動が広がる一方で、Sottoは2017年度より単年度収支での赤字が続いています。2020年度も約100万円ほどの赤字となりました。これまでの繰越金が残りに約600万円であるため、このままの収支が続くと、数年後にはSottoは解散せざるを得ない状況にあります。さらに、法人会員・賛助会員ともに減少傾向です。



これまで様々な形で Sotto を支えてくださった皆さまに、改めてお願いです。皆さまの「苦悩を抱える方のための力になりたい」「放っておけない」想いを、相談センターにお預け頂けませんか。その想いをしっかりとお預かりし、自死にまつわる苦悩を抱える方の、孤独を和らげる活動を展開していきます。

会員・寄付者の皆さま、理事会の皆さま、ボランティアメンバーの皆さま、Sotto を取りまく全ての方々と協力しながら、理想を追い求めて活動を続けていきたいと思っております。より一層のご支援のこと、どうぞ宜しくお願いいたします。

(事務局長 霍野廣由)



寄付をする



QRコードをスマートフォンでスキャンしていただくと、クレジットカード寄付サイト「Syncable」へ移動します。会員登録不要で気軽に寄付していただけます。その他の寄付方法等につきましては、事務局までお気軽にお問い合わせください。



今月のことば

われわれはあまりにも他人の目に自分を偽装することに慣れきって、ついには自分自身にも自分を偽装するに至るのである。

(ラ・ロシュフコー)

活動報告

- 5月電話相談件数・・・74件（無言8件）
- 電話相談委員会・・・グループ研修 5/20 参加11名
- 5月期メール相談件数・・・受信102件、送信58件
- メール相談委員会・・・委員会会議 5/12 参加6名、5/26 参加3名
- 居場所づくり委員会・・・委員会会議 5/24 参加7名
おでんの会“研究の場” 5/12 申込11名（参加11名）
- グリーフサポート委員会・・・委員会会議 5/24 参加7名
そっとたいむ 5/11 申込2名（参加2名）
- 広報発信委員会・・・委員会会議 5/9 参加3名、5/16 参加3名、5/23 参加2名
- 映画委員会・・・委員会会議 5/24 参加7名
ごろごろシネマ 5/19 申込6名（参加4名）

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同）2021年5月1日～31日受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	浜田市・真行寺（渡辺哲彦）	匿名11名
株式会社エクザム	荒川久志	（syncable 寄付者含む）
葛野洋明	西林佳秋	
	板垣正雄	
長嶋蓮慧	永江武雄	
荻野昭裕	京都市・一念寺	
田嶋弘典	京都市・西岸寺	

Sotto コメント
今年も夏が来たんだな、と思う季節になりました
（A・Y）

発行 2021年6月
認定特定非営利活動法人
京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp



クレジットカードでこちらから
寄付していただけます